

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 15日

協議会名: 駒ヶ根市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
伊南乗用自動車有限会社	<p>&lt;「ア・イ・ウ」エリア&gt; 【こまタク】竜東地区～共通指 定目的地(JR駒ヶ根駅含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平日毎日運行を継続的に実施</li> <li>■利便性向上のための実証実験を実施</li> <li>■市報やHP等で広報活動を展開</li> <li>■運転免許証自主返納支援事業を継続的に実施し、利用登録者数の増加に寄与</li> <li>■高齢者関連部署と連携した割引タクシー券・福祉タクシー券の交付を本年実施</li> <li>■予約配車システム導入による効果的な運行</li> <li>■アプリ・ネットによる24時間予約が可能になり、利便性向上</li> </ul>	A 計画どおり適切に実施された	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用登録者数 【目標】1,749人以上 【実績】1,719人 【考察】運転免許証自主返納支援事業の推進、その他広報展開により新規登録者は堅調。</li> <li>2. 収支率 【目標】8.3%以上 【実績】6.1% 【考察】利用者が微増に対して、人件費や燃料費の価格が大きく高騰したため収支率は低迷。</li> <li>3. 財政負担 【目標】3,800万以内 【実績】3,823万 【考察】概ね計画通りの運用となった。</li> <li>4. 総利用者数 【目標】4,931人以上 【実績】5,063人 【考察】コロナも第5類に移行し、外出機会が増えたことに加え、予約配車システム導入したことで、利用者の希望に沿った運行が可能になったため好調。</li> <li>5. 運行率 【目標】80%以上 【実績】89% 【考察】コロナが第5類に移行し、外出機会が増えたため好調。</li> <li>6. 人口カバー率 【目標】100% 【実績】100% 【考察】現状維持を継続</li> </ol>	登録者数・利用者数の増加に向けて、引き続き「平日毎日運行」を実施するとともに、充実させたサービスをより一層効果的に利用してもらえるように利用者に寄り添った広報活動を展開する必要がある。
赤穂タクシー有限会社	<p>&lt;「エ・オ」エリア&gt; 【こまタク】竜西地区～共通指 定目的地(JR駒ヶ根駅含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平日毎日運行を継続的に実施</li> <li>■利便性向上のための実証実験を実施</li> <li>■市報やHP等で広報活動を展開</li> <li>■運転免許証自主返納支援事業を継続的に実施し、利用登録者数の増加に寄与</li> <li>■高齢者関連部署と連携した割引タクシー券・福祉タクシー券の交付を本年実施</li> <li>■予約配車システム導入による効果的な運行</li> <li>■アプリ・ネットによる24時間予約が可能になり、利便性向上</li> </ul>	A 計画どおり適切に実施された	<p>B</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用登録者数 【目標】1,749人以上 【実績】1,719人 【考察】運転免許証自主返納支援事業の推進、その他広報展開により新規登録者は堅調。</li> <li>2. 収支率 【目標】8.3%以上 【実績】9.1% 【考察】利用者は微増であったがAI自動配車の導入により、効果的な運行ができたことで、運行経費を抑えることができ、収支率が改善。</li> <li>3. 財政負担 【目標】3,800万以内 【実績】3,823万 【考察】概ね計画通りの運用となった。</li> <li>4. 総利用者数 【目標】4,931人以上 【実績】5,063人 【考察】コロナも第5類に移行し、外出機会が増えたことに加え、予約配車システム導入したことで、利用者の希望に沿った運行が可能になったため好調。</li> <li>5. 運行率 【目標】80%以上 【実績】89% 【考察】コロナが第5類に移行し、外出機会が増えたため好調。</li> <li>6. 人口カバー率 【目標】100% 【実績】100% 【考察】現状維持を継続</li> </ol>	登録者数・利用者数の増加に向けて、引き続き「平日毎日運行」を実施するとともに、充実させたサービスをより一層効果的に利用してもらえるように利用者に寄り添った広報活動を展開する必要がある。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月15日

協議会名:	駒ヶ根市地域公共交通協議会
-------	---------------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p><b>(1)事業背景</b>  <b>【人口・地理】</b>          ■人口31,859人、高齢化率31.5%(令和4年4月1日現在)          ■西は中央アルプス、東は南アルプスに囲まれた高低差のある地域で、西部地域(市中央部を縦断する天竜川より西側の地域)は天竜川沿岸の複雑な河岸段丘、東部地域(天竜川より東側の地域)は山あいの急峻な中山間集落となっている。</p> <p><b>【都市構造・移動手段】</b>          ■都市の郊外化の進行(商業施設、医療機関、新興住宅などが郊外化かつ散在)に伴い、移動ニーズが多様化(目的地がJR駒ヶ根駅を中心とした市街地から分散)し、自家用車に頼らざるを得ない都市形態となっている。          ■自家用車を持たない交通弱者にとっては、通院や買い物といった生活に必要な移動のために、地域公共交通といった移動手段の確保が必須となっている。          ■少子高齢化の加速により、将来的に車を運転できなくなる人、送迎してくれる家族を持たない人の増加が懸念されることから、社会構造の変化に応じた都市計画の見直しに合わせて、現実的な都市形態や市民ニーズに合った地域公共交通の確保が必要となっている。</p> <p><b>【地域公共交通の課題】</b>          ■当市の公共交通網は、隣接する伊那市や飯田市等へ通じる唯一の幹線交通であるJR飯田線や中央自動車道を利用した高速バスを軸に、幹線交通に通じる支線の役割を果たしている「こまちゃんバス」(定時定路線、運行母体:駒ヶ根市地域公共交通協議会)、JR駒ヶ根駅と駒ヶ岳ロープウェイとの間を往復する民営路線バスから成り立っていた。          ■平成21年度に実施した住民意向調査では、市民の74.5%が「こまちゃんバス」に対して改善を求めており、特に交通弱者の中心である高齢者は、「自宅近くの運行」「増便」「デマンド方式の導入」を求めており、「こまちゃんバス」は市内移動手段としての役割を果たしていない状況であった。          ■「こまちゃんバス」は、都市の郊外化の進展に伴い、幅広い出発地と目的地に対応しきれず、以下の課題を抱えていたため、平成25年5月をもって運行を終了した。          ・利用者数の減少(毎年10%ずつ減少)          ・交通空白/不便地域の存在          ・利用者要望を充足するための路線/ダイヤ拡大や運賃収入の減少による財政負担の増加</p> <p><b>(2)事業目的・必要性</b>          ■上記課題を解決し、以下に示す地域公共交通を実現するため、平成25年10月から「こまがねデマンド型乗合タクシー」(通称「こまタク」)の本格運行を開始した。          ・交通空白/不便地域を解消する交通          ・都市形態や高齢者を中心とした交通弱者のニーズに即した有効的な交通          ・無駄がなく効率的な交通          ・市民と行政との応分の負担による持続可能な交通          ■まちづくりの視点を踏まえた公共交通ネットワークの再構築を図るため、令和3年度に「駒ヶ根市地域公共交通計画」を策定し、より利便性の高い制度に拡充を図ることとしている。          ■高齢者を中心とした交通弱者の通院や買い物等の生活を支える地域公共交通(「こまタク」)を確保・維持していくため、地域公共交通確保維持事業に取り組むことが必要である。</p> <p><b>(3)事業効果</b>          ■「こまタク」を運行・維持することにより、高齢者を中心とした交通弱者の日常生活(通院や買い物等)に必要な不可欠な移動手段を「有効的※1」かつ「効率的※2」に確保することができるとともに、外出促進・地域活性化に繋がる。          ※1 要望の多い「自宅近くの運行」が完全に実現(交通空白/不便地域の完全解消)される。          ※2 予約制により「予約がない場合は運行しない」、「予約に応じた経済路線の設定」が可能となる。</p>
-----------------------------	---